

## 議 事 録

- 会議名 第6回佐賀県総合教育会議
- 開催日時 平成28年9月6日(火)13時30分～14時30分
- 開催場所 佐賀県庁新行政棟4階 庁議室
- 出席者 山口知事、古谷教育長、浦郷委員、牟田委員、小林委員、音成委員、加藤委員  
(知事部局) 落合政策部長  
(総合教育会議事務局) 木島政策総括監、西政策課長、他
- 議題 (1) 学校教育ネットワークに係る情報セキュリティ強化に向けた取組について  
(報告)  
(2) 郷土学習について

### ○議事録

#### 1 開会

##### (木島政策総括監)

それでは定刻になりましたので、これより第6回佐賀県総合教育会議を開会いたします。私、本日の会議の進行を務めさせていただきます、政策部政策総括監の木島と申します。よろしく願いいたします。本日は、知事、教育長、教育委員皆様のほかに、落合政策部長が出席させていただいております。それでは始めに山口知事からご挨拶をお願いいたします。

##### (山口知事)

本日も、お忙しい中お集まりをいただきましてありがとうございます。8月の終わりにものづくりフェスタを体育館でやらせていただいて、教育委員会が本当に一緒になって頑張っていたいて、子供たちが本当に目を輝かせて様々な佐賀のものづくりというものにいろいろところでタッチして、体験して、というのは非常に嬉しく思えました。私も再来年が明治維新150年ということで、薩長土肥で、4県知事で頑張って、様々なプロモーションをやってるんですけども、やはり佐賀県がなぜ薩長土肥の中に入ってるのか、というような話もよく出ていて、本当にじゃあ何でこの明治維新に佐賀藩とか肥前がどういう役割を果たしたのかということ、佐賀県の子供たちは知ってるんだろうかというような思いもあって、せっかくの機会なので、この郷土というものを考えるということをしつかりとやっていくということが大事かなというふうに感じています。自分の県の歴史を誇りに思うかというランキングがあるんですけども、1位は山口県、2位が京都府、3位が鹿児島県、4位が高知県。薩長土肥がいっぱい並んでます。17位が佐賀県。ということで、きっと自分たちの歴史ということについても、必ずしもよく分かってない。自分たちがいかに、ものづくりと人づくり、

佐賀藩は本当に、一生懸命勉強して頑張っ人づくりをやらないと、いくらお父さんが上士であっても登用してもらえないというのが我々の歴史。本当にいい教育をしていこうといったところが僕らのプライドでもあったので、そういうものづくりと人づくりという佐賀藩のお家芸をもう一度ここで復活できるように、という気持ちになりました。今年は、有田焼 400 年ということで、今一生懸命やってますけれども、これから再来年の明治維新 150 年に向けて、改めてもう 1 回、人づくり、ものづくり。それから指導要領は、近現代史をしっかりとやるという必修項目に今変わりそうだという話もあるので、どうせこれからの、今でいうと小学生ぐらいでしょうか、近現代史が大学受験の項目になったりとかするのであれば、今のうちから佐賀藩みたいな郷土の歴史ということに、ある程度体験とかイメージとか経験を積んでおくことによって、きっといろいろな良いことがあるのかなというふうに思えますし、やはりこれからのグローバル時代に、自分たちの国がどういうふうな、明治以降歴史をたどったのかということが、国際人として日本人として、そして佐賀人としてどうしても必要な要素だろうなというふうに思えますので、今日はそういったことで、郷土学習といったことについてはもうテーマで挙げさせていただいておりますので、皆さん方の率直なお話をいただきながら、有意義な意見交換できればというふうに思います。今日もよろしくお願ひします。

## 2 会議事項

### (1) 学校教育ネットワークに係る情報セキュリティ強化に向けた取組について (報告)

#### (木島政策総括監)

ありがとうございます。それでは、本日の議事に入ります。本日は、学校教育ネットワークに係ります情報セキュリティ強化に向けた取組について教育委員会からまずご報告いただきたいと思ひます。続きまして、今知事の方からありました郷土学習についてご議論していただくこととしておりますので、よろしくお願ひいたします。それでは議題の一つ目、学校教育ネットワークに係る情報セキュリティ強化に向けた取組につきまして、古谷教育長にご説明をお願ひいたします。

#### (古谷教育長)

それでは、学校教育ネットワークに係る情報セキュリティ強化に向けた取組について、私の方からご報告をさせていただきますけれども、本当にこの度の案件につきましては、ご心配をおかけし、また当局の方にも、色々と今後の対応についてご配慮いただひていること、感謝させていただきたいと思ひます。それでは早速、学校教育ネットワークに係る情報セキュリティ強化に向けた取組について、ご報告をさせていただきます。ご覧いただひているのは、この学校教育ネットワークに関する対策の全体像をまとめたものでございます。内容と

しては、左の縦の方に書いていますけれども、大きくは対策の強化と、それから体制の強化でございます。まず、対策の強化、上の方にございますけれども、7月16日に第1回の会議を開いておまして、第三者委員会を設置して、今回の事象につきまして、検証いただいた上で今後取り組むべき対策等につきましてのご提言をいただくという形で、今ご議論をいただいているところでございます。それから、システム面における対策の強化といたしまして、三つほど挙げておりますけれども、まず一つは、インターネットの分離に向けた調査を現在進めております。その調査結果を踏まえて、今後対応をしていくこととなります。それと、情報セキュリティソフトウェアの導入、あるいはサーバのセキュリティ強化など、当面の強化策には、これはすぐに取り組めるところから取組を行ってきているところでございます。それから三つ目、今後検討する強化策でございますけれども、9月補正におきまして、ここに書いております教育庁のシステム SEI-NET の方で、ユーザーが異常な行動を取った場合への警報システム、監視の強化、それからユーザーが行った操作内容の保存期間の延長、こういったものを予定しております。このほか10月に第三者委員会の提言を頂くと申し上げましたが、その提言を踏まえた対策について、この2と3の間の方に書いていますけれども、提言を踏まえた対策を今後内容に沿った形で具体化を図っていくところを取り組んでまいりたいと思っております。それから、大きく2点目の体制の強化でございますけれども、対策チームを編成し、また、県の情報監による支援を受けながら取り組んでいるところでございますが、先ほどの9月補正の中でもう一つ、具体的なセキュリティ強化対策の立案・実施をしていく上での実際のプロジェクトの立案・実施のための支援業務を専門のコンサルタントにお願いする、その委託のための経費を、今回9月補正で上げさせていただいているところでございます。それから、専任組織を含む体制強化につきましては、これも第三者委員会の提言内容等を踏まえて委託を検討していきたいと思っております。いずれにしても県教育委員会といたしましては今回の事案に関してシステムそのものの問題だけではなくて、運用上の問題、ハード面・ソフト面の両面で、対策にしっかりと取り組んで県民の皆様の信頼の回復に努めていきたいと考えているところでございます。以上、ご報告とさせていただきます。

**(木島政策総括監)**

ありがとうございました。ただ今ご説明いただきましたけれども、何かご意見がありましたらお願いいたします。

**(山口知事)**

そもそも導入するときにセキュリティ対策というのは十分にやったとお考えですか。

**(古谷教育長)**

セキュリティについて、全く検討していなかったということではなくて、一定のセキュリティ対策というものを取った上で始めたというところでございますけれども、やはり今回改

めてこういった事象が起こっているのを振り返りますと、システム面での脆弱性が見つかったというところでは、この間の第三者委員会の中でも、システム構築時の脆弱性の診断等が本当に十分だったのかというのはご意見をいただいているところでございます。あともう一つ、これも1回目の第三者委員会の方でなんですけれども、運用面での課題というのがやはりあるんじゃないかというご指摘を頂いております。そういう意味ではICT教育というものを進めるに当たって若干バランスというものがどうだったのかなということも、今回はしっかり振り返っていかねばいけないというふうに思います。

#### (山口知事)

この問題は本当に、これまで何度も議論をしてきたと思うんですけれども、やはりICT教育を導入するまず前提として、それをどう使いこなしていくのかということ、それから当然、このセキュリティということに関しては、ハードのみならず、使う人間のメンタリティとか、そういったものも含めて、運用面も含めて、しっかりと構築した上でやらなければならないというふうにも思うので、今回セキュリティ対策をしっかりやっていただくということなので、本当に万全を期してやっていただきたいなと思いますし、県民の信頼に答えていただきたいと思っています。それとICT教育については、網羅的にいろいろやられていますけれども、本当にこれを使って、ここの部分は少なくとも改善できたとか飛躍できたという分野をやはりいくつか示していただけると非常に分かりやすいのかなと。まだまだ我々佐賀県というのは先行してるので、すべからく上手くいくかの実証というのはなかなか難しいのかも知れないけれども、いくつかの分野に限って言えばできることもあろうかと思うので、そういうところの説明を尽くしていくということ。そのためにはやはりセキュリティのところはしっかりとやっていく。特に、簡単に学校の近くでアクセスできて、というところというのは、もっと初歩的なことのような気もするので。そういったところをしっかりと、運用面も含めて、現場を大事にしながらやっていただきたいなと思うんですけど。

#### (古谷教育長)

ありがとうございます。今回のことをしっかりと踏まえて、反省の上に立って進めてまいります。どうぞ、よろしく申し上げます。

#### (木島政策総括監)

ありがとうございました。学校教育ネットワークに係る情報セキュリティ強化に向けた取組については以上としたいと思います。

## (2) 郷土学習について

### (木島政策総括監)

次に、郷土学習についてですけれども、こちらについてはまず、教育委員会から現在の取組状況、そして今後の取組についてのご説明をお願いいたします。

### (古谷教育長)

それでは、引き続き私の方から説明をさせていただきたいと思います。県教育委員会では、昨年度からふるさと佐賀に対して誇りと自信を持つ人材を育てるということで、「さがを誇りに思う教育推進事業」に取り組んでいます。具体的には、ここに四つ挙げていますが、左の上の方からいきますと、公立の小・中・高等学校で、特色ある取組をいろいろやって、その辺のものを把握して、ホームページで紹介をするということ。それから、その下の方ですけど、県立高校では、高校の3年生を中心に、佐賀の歴史や文化に係わる講演会を開催しております。三つ目に、県立高校の授業で活用するための、郷土学習資料を作成することとしており、今年度、作成を終えることにしております。また、佐賀に愛着を持って、より深く学ぼうとする機運醸成を図るためのリーフレットを併せて作成をするようにしております。以上この四つの取組を今進めてきております。社会科や総合的な学習の時間などを通じて、学校では児童・生徒の小・中・高の発達段階に応じて、ふるさと佐賀をみんなで、書いていますように、まず親しむというところから、愛する、誇る、そして最後は外に向かって語ることができるような態度の育成を図っていくということで取り組んでいくということでございます。27年度の取組と成果についてですけど、まず講演会。先ほどご紹介いたしましたけれども、全ての県立高校で高校3年生を対象に開催をいたしております。例えば、この中ほどにございます神埼高校では、佐賀城本丸歴史館の七田館長さんに、「佐賀・神埼の過去の輝きから未来を見つめよう」というテーマで佐賀や神埼の昔の様子についての講演を行っていただきました。下の方に生徒の感想をご紹介します。その二つ目のところに神埼高校のものがありますが、「幕末期は佐賀が最先端であったということを知って大変誇りに感じた」というふうな感想も聞かれたところがございます。それから、公立の小・中・高等学校における昨年度の取組を集約して、特色ある取組を、今年度、今年の4月から教育委員会のホームページで紹介をさせていただいています。ここに挙げています例としては、中ほどにある北茂安中学校では、伝統工芸の地元の白石焼きの製作体験などを行われているようがございます。今年度の取組としては、先ほどもお話ししましたが、まずは9月末に、県内の全ての高校生に、興味・関心を引き出すためにこのリーフレットを配布する予定でございます。イメージとしては、テープが折り畳み式になっておりまして、生徒がいつも携帯できるように生徒手帳のサイズということで作ろうとしております。鍋島閑叟公や名護屋城跡などを10個の項目で。裏面ではですね、県内の名所、特産物を入れた地図を載せる予定でございます。それから、来年の1月には県立高校の授業で活用するための郷土学習資料を作

成して配布する予定でございます。郷土学習資料は、29項目について、それぞれの項目6ページ程度で作成予定でございます。今会議では項目だけで紹介するように考えています。この郷土学習資料を、授業で有効に活用できるように、別途活用手引きも作成をしたいと思っております。郷土学習資料を活用した授業を行うために総合的な学習の時間、あるいは特別活動などの中に、佐賀のことを学ぶ時間というものを作って、各学校の方で学習内容や指導計画を作成して進めていくように考えているところでございます。また県立高校で郷土学習を進めていくに当たりまして、年末には県立高校の教員を対象にした研修会などを今後考えていきたいと思っております。私からは以上でございます。

**(木島政策総括監)**

ありがとうございました。ではまず教育委員さんからご発言いただきたいと思っておりますけれども、教育大綱策定の際に、浦郷委員さんが郷土教育について熱く思いを語られていたのが記憶にあるんですけど、最初がよろしいですか、最後のトリにとっておいてよろしいでしょうか。

**(浦郷委員)**

最初。

**(木島政策総括監)**

最初で。はい、浦郷委員お願いいたします。

**(浦郷委員)**

今、パネルを見させていただきましたが、今回、特に高校生の向けの資料を作るということで、この内容について、あるいは形態について、大変期待を私自身もしています。まだ全容については見ておりませんが、立派なものができるだろうと思いついておるところでございます。それをどういうふうに使って、生かしていくかということがとても大切なわけでありまして、それと同時に、今後のことをちょっと考えてみると、高校生版を作ったのは良いとしてですね、実はその前の段階、小学生とか中学生にどのようなものを、色んな教育として与えながら、その高校部分につなげて行くかという、そのつなぎの部分については、まだ、なかなか県の教育委員会としても、考え方がまとまっているわけでも、方針があるわけでもないような状況であります。今後、その高校版ができたところで、是非、小学校、中学校から高校へどんなふうにつないで、本当の意味で佐賀を誇りに思う教育を作り上げていくかというふうなことが一つ大きな今後の課題であろうというふうに感じております。そして併せてあと一つ言えば、佐賀を誇りに思う教育ということで、佐賀のことをいろいろ知らしめるというのは大切なことではあります。ただ、佐賀のことだけというか、佐賀一辺倒にならないようにしないといけないのではないかとこのことを強く思っています。と

というのは、例えば、世界に色んな意味で注目される日本の優れた部分がたくさんあるわけ  
ありますけれども、そういう世界に注目される日本の良さ、そういうものをよく理解し、そ  
の上で、日本の中の佐賀、佐賀の中のどこそこ、といったような、そういうふうな形での理  
解をさせないと、単に佐賀のことということだけでは、今後日本に、あるいは世界に活躍の  
場を求めようとしたときに十分な力を発揮できないだろうというふうな気持ちがいたします  
ので、ちょっと先のことにはなりますけれども、高等学校の、今回作る資料みたいなものと  
小・中学校をどんなふうにつなげていくか、そして併せて、佐賀を誇りにするためには、や  
はり、佐賀の基盤でもある日本というものについての理解を、どの時点かで、きちんと子供  
たちに与えていくということも必要ではないかと思います。多分、小学校の、例えば低学年  
から中学年ぐらいにかけて、やはり日本の中にある色んなすばらしさ、行事みたいなもの、  
あるいは道徳的なこともひっくるめて、色んな良さがあると思いますが、そういったものも  
きちんと教えながら、佐賀、あるいは佐賀の中のある地域の良さみたいなものも併せて進め  
ていく、そして中学校ぐらいの段階で佐賀そのものの色んな知識部分を入れ込み、そして、  
今回の高等学校の資料の中で出来上がるであろう、そういう佐賀の実際的な知識、そんなも  
のに結びつけながら、どこでも活躍できる人材、誇りに思っていてやっていけるような人材を  
育てるべきではないかと、そんなことを今のところ考えております。

**(木島政策総括監)**

ありがとうございます。

**(落合政策部長)**

いいですか。

**(木島政策総括監)**

はい。

**(落合政策部長)**

県庁の中でもこの話を議論している中で、今回高校のテキストだったり、リーフレットを  
整備するというので、高校でこういった教育に力を入れて行こうという方向性が見えるん  
ですけれども、義務教育、小・中学校、特に市町が中心になって取り組まれている部分でもあ  
るので、県教委がどこまで絡めるかという課題はあるんですけど、そういったところからこ  
ういうものをやはり子供たちに伝えていく必要があるんじゃないかという議論をしました。  
正に今、浦郷委員さんの方からご指摘があったようなところを私たちが教育委員会に問題提  
起させていただいて、是非考えていただきたいという願いをしてきたところでした。

**(浦郷委員)**

教育委員会の中でもですね、やはり義務教育の部分は基本的には市町の方というふうな部分もありますので、どこかその県の教育委員会としてこうこうというふうな進め方というのはできにくいかと思うので、本当の意味で市町の方と県の方と一緒にあって、もう全てが子供たちのために何が有効で必要かということで、やはり両方が手を取り合っているといますか、やっていかなければいけないねという話は委員さん方とも話はしています。そういうときに、やはり知事さん出番でございます。やはり県の子供たちをというときに、やはり知事さんのお力と言いますか、それは、現実、非常に大きなものがあるんですね。そういう意味では県の教育全般について知事さんのそういった後ろ盾といいますか、そういうものが欲しいなという話は率直に委員会の中でも話をしているところです。よろしく願いいたします。

**(木島政策総括監)**

では、次どなたかいらしゃいますでしょうか。よろしければ小林委員さんいかがでしょうか。いつもどおり皆さんにご意見いただきたいなと思ってまして。

**(小林委員)**

私は岡山出身ですので、本当にすみません、不勉強で。何も佐賀のことを知らないのですが、これを機会に、親も一緒に子供と学ぶ機会ができたらいいなと思います、誇りを持って。私も他県から来たので佐賀の良さってすごく、自然が豊かだったりとか、本当に緑の色が一番だったんですね。ショックを受けたのが食べ物も美味しいとか、そういう元々佐賀が持っている良さっていうもの、皆さん何もないとか、当たり前すぎて気づいてらっしゃらないところってたくさんあるかなと思うので、そういうところも一緒に、「佐賀さいこう！」で、大人も一緒に盛り上げて、子供たちが、大人が佐賀のいいところを語っていったりとか、誇れる佐賀というのを大人が目を輝かせて話をしていくと、子供たちも「佐賀県ってすごいんだ」というのを思えるかなと思って。大人が「何もないもんね」って言うのをやめる運動じゃないですけども、こんなことがあるよねっていうのを、大人のレベルでもやっていけたらいいなというのもあります。むしろ、私この辺について詳しくないんですけども。

**(山口知事)**

中学生とか高校生と意見交換する機会が最近あって、じゃあ佐賀はどうすればいいのかっていうときに、大体出てくるのが水族館とかああいう箱物か、テーマパークか、ああいうリニアモーターカーが欲しいとか、何というか、あまり考えてないとか、そういうのが多くて。じゃあどんな話をすると彼らに刺さるかなって考えていろいろこうしゃべるんだけど、例えばじゃあ日本で最初に博覧会に出たのはどこか知っている？と。世界、パリなんだけど、やはりそれは当時の江戸幕府と薩摩藩、鹿児島県と佐賀県の三つよって。最初に世界を見たのは佐賀だし、という話とか。大体今東京オリンピックとか盛り上がっているけ



ど、東京っていう名前をつけたのは佐賀人よって。大木喬任というのと江藤新平の二人がね、江戸という名前ではいけなくて、やはり京都と同じこっちに都がという名前で新たに出直しをしないと日本はこれから世界に立ち行かないということで、意見書を散々出して、江戸は東京に変わったわけで。佐賀の人がいなかったら、あれ江戸オリンピックですよ、2020年。佐賀の人ってやはりね、福岡とか東京の方が上だと思っていることが多くて、そんなことないよっていうことを私もさんざんね、だってそれこそ前お話した、例の、西洋人も人なり、佐賀人も人なり、薩摩人も同じくまたこれ人なり。あんたら佐賀人だって。人間だぞあれはと。同じようにあんたらもできるよっていう演説をすとか導入時に持ってきて、あとは浦郷さんが言うように、そういうスコープの中で佐賀は見てただけけれども、もちろん日本とか世界というのは広がってるわけであっていうふうに、まずその佐賀のスコープで日本とか世界を見てあげれば。子供ってやはり自信がつくとね、たいしたことないよ東京、って思った瞬間に志ができたり、俺も何かできるはずだって。僕は思ってるんです。

(小林委員)

そういう話を知事さんが熱く語ったりとかいうのも、子供たちと身近なところで機会作っていただけるといいなと。

(山口知事)

でしょう。僕はそれを、佐賀県の教員の皆さん方に心から思っただけでいいわけ。だから、何となくそんな佐賀では無理やったって言わんでね、って。そうだ、お前やれるぞって。昔は佐賀ってそういうところだっというくらい教員が熱く燃えるような。だから教育長に言っているんですよ、たまに教員の研修会に私も呼んでって。実現されていませんが。そのぐらい教員ってすごい影響を子供たちに与えるので、まずここに魂を入れてもらうような。教育委員が熱く語っているし、だからもっと火をつけてね。

(音成委員)

そうですね。今パリ万博と仰ったけど、久米邦武も岩倉使節団の全権大使で本当に12カ国回って、その後、「米欧回覧実記」という書を出して、日本の、これからの近代日本の国の在り方みたいなものを全部そこに網羅して書いて、それを日本は参考にして今の日本が出来上がった。遠い親戚だから私、自慢するわけではありませんけれども。

(山口知事)

いや、もちろん。

(音成委員)

そういう人もいるし、本当に最近特に思うのは、やはり七賢人、鍋島、今仰ったように2年後には明治維新150年、本当に素晴らしい人たちで。亡くなられた福岡先生は八賢人と仰ったんですね。それには相良知安を入れる。東大の医学部を正に作った人、相良知安を入れて、もう一人九賢人と仰った人もいて。

(山口知事)

9もあるんですか。

(音成委員)

9もあるんです。枝吉神陽。この方はそれこそ大隈重信とか大木喬任とか、ああいう人たちを義祭同盟で。

(山口知事)

枝吉神陽を入れて八賢人って呼ぼうとしたりもするね。高知は、来年、維新博というのをやると。大政奉還150年、来年がね。大政奉還には、あまり佐賀藩は関係ない。もっと後から出てくるんで。来年うちは万博150年かなって。再来年は薩長土肥みんなで明治維新150年があつて。それに向けて、うちもちょっといろいろこのエリアを皆さんに知ってもらおうようなことを考えていこうかなと。

(音成委員)

それは、子供たちもだし、どなたか県議会の方が、九九みたいに小さいときから佐賀の七賢人とか八賢人とかさつと言えるように言わせたらどうかとか言った方がいらっしやいましたけれども、本当にやはりそういうものというのは、みんながさらさらと言えるぐらいに。それと高校生になったら、この学習で一人一人どういうもの。盛んに北海道の島義勇のことを仰っているように、本当に知らない佐賀の人、いっぱいなんですよね。

(山口知事)

それこそ北方領土、お前そこから出て行けと。元々、初代は閑叟公が長官だし、そういうのを牟田さんとか頑張って勉強されたんでしょう。無理やりか。唐津とか、昔は田代とか、どうなんだろう、その頃の話。でも意外と鳥栖とか行くと、対馬藩の時の思いついていうかすぐ出てくる方も結構おられるよね。

(音成委員)

そうですね。

(山口知事)

やはり、みんな何か歴史っていうものに対する思いってあるんじゃないかなと。

(音成委員)

やはり、大人がもっと自覚しないとですね、県民が。

(山口知事)

とにかくそう、小林さんが言うように、大人が子供に佐賀人で良かったねというか、このすばらしい自然でもいいしというふうに諭さない。やはり僕ら今、東京とか大阪で「Re:サガ」ってやってるんですけども、やはり嬉しいよね、郷土のことが褒められたり、みんなで良かったねって言い合うって。やはりああいうのすごく良いなって。

(音成委員)

自分の町を誇りに思わないと、外から来た人だって絶対満足はできないだろうし。私が嫁いで来た頃、お客様が佐賀には何がありますかと言われたときに、タクシーの運転手さんでもうちの母でも、「佐賀は何もなかですもんね」っていうのが、それをずっと聞いてきて、そうしたらやはり子供たちがそういうのを聞いたら、「本当に佐賀何もなかるうね」と。でも今はもう全然違ってきています。

(山口知事)

大分変わってきました。

(音成委員)

タクシーに乗ってもタクシーの運転手さんはちゃんと幾つかは説明できるようになっているし、それから旅館でも。開放施設ができたというのがありますよね。一番いいのは本丸歴史館、柳町あたりが整備されたり、徴古館があったりとか、色んなお勧めのところがいっぱいあるし。この間、うちの方でお泊まりになった方に、色んな方がお泊まりになるんですけども、ほとんどがビジネスとか、何かイベントがあったときとか、バルーンとか、それから大会とか。観光でというのはなかなか。そういう人ってあまりいらっしやらないです。たまたま、そうらしき人かなと思って聞いたら、いつかテレビで鍋島閑叟公のこと。

(山口知事)

あれ良かったよね。

(音成委員)

ありました。CSの。

(山口知事)

BS だったかな。

(音成委員)

BS だった。その前に CS でもあったんですよ。E テレの方で。鍋島直正に焦点をおいて。そうしたら、「佐賀はすごいんですね」と。「それで佐賀に来ました。本丸歴史館を見に来ました。見てまたまたすごい。」と。「どうして佐賀の人こんなにいっぱい立派な人があるのに PR しないんですかね。」と言って。関西の人だったんですけど、「関西だったら大変ですよ、こんなにいっぱい色んな人が出てるんだったら。」と言って。

(山口知事)

萩とか行くと、お店お店にすごい自分たちの町の誇りがいっぱい飾られてて、家に行っても長州の本がいっぱい置いてあるわけですよ。決してそう思わないんですよ、この町は。だから何か、「あれ？」って。「どうしたんだろうか？」って。

(音成委員)

今後、皆さん県民の方も少しずつ変わっていき、そうなれば子供たちも変わっていく。

(山口知事)

やはり気付いたのは、まず内に一番の問題点があって、いくら佐賀が頑張っ外に出て行こうが、やはり中に来て、お客さんに「つまらんね」って言われたら、もう何も砂上の楼閣で。だからまずここをしっかりね、いや、本当につまらないところだったら諦めるけども、本当にすばらしい、歴史だけじゃなくて様々なものが凝縮した県なので、そこをしっかりと固めれば、あとは本物感がどんどん出てくるんで、と心から思います。

(音成委員)

そうですね。

(山口知事)

子供たち大事。意外と中で育った人って分からないので、つい「何もなかもんね」って。つい天神と比べて、あっちの方がいっぱいあるってそこだけを見て、都市的な部分だけを見て比較してしまうので、その縮尺でやられると本当の心、価値っていう、特にこれからの時代の価値というのは見えてこないわけ。意外とずっと佐賀にいる人間にも問題点がある。小林さんは外から見たスコープがあるので、その良さもきっと。

(小林委員)

そうですね、やはり今も実家に帰りますけど、戻ってきたときに本当にほっとするというか、ああ戻ってきたっていう、なんでしょうね、包み込まれるような感じ。

(山口知事)

あるよね。

(小林委員)

あるんですよ。ああ帰ってきた、と思える。

(山口知事)

だからお嬢さん帰って来るのか。いいな、さすが。

(音成委員)

2年半後ですね、4年と思ってたら、2年半だった。どうしようと思った。

(山口知事)

加藤さん、何かあれでしょう、やはり佐賀いいですよ。

(加藤委員)

はい。いいと思います。私この間ですね、知事がCSOさんとの意見交換会のときに、初めてああいう知事の思いというのを聞いてですね。本当に私、ああいう知事の思いをもう皆さんがたくさん聞かれたら、やはり佐賀県盛り上げなくっちゃって思われるんじゃないかなと思ったんですよね。なので、知事がやはりトップセールスじゃないけど、そういった形で色んなところでやはりお話をされるということは、多分、県民の皆さんもお聞きしたいんじゃないかなっていうふうに思いました。あれを本当に私、初めて分かりました。

(山口知事)

私は常に熱い思いを持ってるんですけど、今自発の地域づくりというのをやってて、私は本当に佐賀がこれからこうして行くためには、この県民力というか、みんながそう本当に思っ、地響きのように、あの頃のようにしていく必要があると思ってるんで。そうすると、ある程度私はもちろん頑張るんだけど、多少我慢をしながら、皆の力になるように。だから、僕は教育委員会すごく大事だなって。子供ってこれからずっと、ベースアップをする。佐賀が速力を上げていく基礎なので、本当にまず教員の皆さん方に、そういう同じ思いをこう持ってもらえる仕掛けがないかなあと。

(加藤委員)

そうですね。私もあれを聞いて、本当に佐賀を誇りに思いたいと思って、色んな人にやはり伝えたいなと思った一人だったので。あそこにいらっしゃった方は皆さんそう思って。

(山口知事)

もちろんそうでしょう。だって、元からの佐賀人もいるけど、外から全く関係なく佐賀が好きになって、あれだけの志で、どんどん今 NPO や CSO が佐賀に終結しつつあって。結構響くんですよ。ここ（心）ってちゃんと。

(加藤委員)

知事の伝え方がまた響くんじゃないかと。

(山口知事)

だから ICT もね、そういうものを伝えるあくまでも手段であって欲しいので。佐賀ってすごく中身はしっかりした県だから、何となく ICT の上っ面だけが先行するっていうのは、僕の本意では全くなくて。それを伝えるために使っていただけるんだったら、これはすばらしいなと思うんです。

(加藤委員)

何か自分の県を誇りに思うと県って発展しますよね。

(山口知事)

する。そう。

(加藤委員)

そうなんですよね。まずそこがやはり大事というか、皆さんがそれを分かると、やはり佐賀県が発展する。本当に。

(山口知事)

俄然良くなります、それは。

(加藤委員)

と思います。

(山口知事)

学校もそうでしょう。自分が学校をすごく誇りに思ったり、大事に思うと、何か自然に上手く回り出すっていうか。

(加藤委員)

一緒ですよ、どこも。

(山口知事)

みんなそうですよ。旅館もみんながそうやって「うちの旅館は」って、誇りを持って自慢できるとなると、こう上手く回るし。心の中で「何かつまらん旅館に来たね」って思いながら接客していると、分かるもんね。

(浦郷委員)

熱意というのですかね。今知事のお話を聞いていても、本当になかなか熱いですよね。その熱意は明らかに人につながっていきますね。私は学校の教員を長くしていました。学校の子供たちの様子を見ているときにも、本当に先生方が熱く語る、そういう学校の子供たちっていうのは、思いがけないほどの大きな力を発揮してくるんですね。佐賀県なら佐賀県の中でも同じと思うんですね。やはり本当に誇らしいものを根にもって、そしてそれを喜びながら感じながらやろうとしたときにね、本当に思いがけないほどの伸び方をしていく。そう考えるとね、今知事が言われたように、熱く語る、教育場面でいうと、やはり先生方が熱くまらず語るっていうのがとても大事なんですね。生徒を見ると分かりますもんね。熱く語っている先生方の側にいる子供たちのその勢いというかね。

(山口知事)

勢いね。

(浦郷委員)

教育委員会みたいな立場でも、先生方をどういうふう意識付けをさせるかというのは大きいでしょうね。是非、研修とかいうと何か固くなるしくなってしまうですけどね、心から「佐賀を」というふうな思いを持って、教員をどういうふうにするかっていうことがね、一つ大きいポイントだと思いますね、私も。

(山口知事)

後ろにいるけど、教育委員会っていいよな、羨ましいよなと思う。本当にあそこに一緒に入って教育委員会事務局で一回やりたかったなって思うね。

(木島政策総括監)

先ほど、知事からも教員の前で一度喋る機会をといた話がありましたので、そういった機会を。

(古谷教育長)

是非お願いしたいと思います。

(木島政策総括監)

牟田委員さん、いかがでしょうか。

(牟田委員)

今の山口知事だから申し上げるけれども、知事は行動力があるからね、やはり仕掛けとしては、僕はNHKの大河ドラマで佐賀を取り上げて欲しい。

(山口知事)

それは思う。

(牟田委員)

ちょうど先ほど仰ったけど、明治維新150周年が再来年であれば、やはりそこに佐賀を是非ぶつけていただきたい。

(山口知事)

そう、全くそう。

(牟田委員)

多分、知事だとできるんじゃないかと思うんですよね。だからそれは是非やっていただきたい。もう一つは、それは大人に向けてであって、子供に向けてはですね、またちょっと楽しい仕掛けとしてクイズ大会みたいのを全県的にやって欲しい。例えば高校生クイズ大会で佐賀のことで。多分佐賀検定で試験やっているとつまらないですよ、勉強することになるから。じゃあクイズ大会にして小学生でも中学生でも高校生でも全県レベルでやって、優勝したら知事と一緒に嬉野温泉一泊旅行だとか。そういう楽しいことで、なおかつ佐賀の知識をやって、県民全体が一年のあるときに盛り上がるとか。そういう仕組みというか、仕掛けをやって、楽しみながら佐賀県を知っていくっていうのを是非やっていただきたい。

(山口知事)

そうだね。



(牟田委員)

勉強でやるというのは駄目だと思いますね。

(山口知事)

なるほど。

(古谷教育長)

今、人づくりとものづくりとありますけれども、やはり、人づくりとものづくりですね、さっき仰ったようにものづくりで高校生と一緒にあって、ああいうイベントに参加して、すごく生き生きやっていますね。そういう意味では、ものづくりの方では、専門的にやっている人たちがすごく評価されるような取組というのを県全体でやっている中で、高校生もという形になっている。ふるさと佐賀のことについても、教育以外の取組もすごく大事と思うんですけども、もっと全県的な仕掛けというのがあると、その中に今仰ったような子供の参加とか、そういう機会が持てると。実際に自分が体験して身に付けていくみたいな、そういうところが可能性としてあるのかなと思いました。

(山口知事)

なるほどね。そうだね、県民運動的にも。高文祭が平成 31 年だよな。国体が平成 35 年か。東京オリンピックは平成 32 年か。31 年、32 年、35 年とその間に、いろいろ誇りに思いながらやれるかどうか。

(落合政策部長)

明治維新 150 年で色んな取組をやると思うんですけども、そこに子供たちに参加してもらうとか、楽しんでもらうような仕組みみたいなものが重要かなと。

(山口知事)

そうだね、楽しんでもらう。

(木島政策総括監)

楽しんでもらうといえば、勝手にプレゼン大会というのが先日シエマの方でありまして、佐賀出身のクリエイターの方々が、まずこういった事業をやったらどうかというのを自費、手弁当でいらしていただいて、音成委員の娘さんもいらしていただいたんですけども、ここでも楽しんで郷土のことを学べる仕組みということでカルタ大会をやってはどうかと、カルタを作って佐賀城本丸で年に一度そういうようなカルタ大会をやって、楽しみながら佐賀

の郷土のことを学ぶ仕組みというのはどうだろうか、というようなプレゼンがあったことを、今の牟田委員さんの話を聞いて思い出しました。

**(山口知事)**

佐賀出身の人って、プラスの意味でもマイナスの意味でも佐賀人という意識がすごく強くて。だからクリエイターがすごいいっぱい戻ってきてくれて、勝手にプレゼンとか。僕はあのクリエイターが勝手に遊べる県を目指しているんですよ。もう好きにやってくれと。さっきのプレゼンも、こういう事業をしたいから入札をするのではなくて、何がしたいんだこの佐賀で、勝手に喋れ、ってやり方。なので、そうするとみんな結構好きに集まって。結構いっぱいクリエイターいるんですよ、柳町なんかね。

**(音成委員)**

私なんて子守をしていました、その間に。ちっとも帰ってこない。その後の夜の会合まで。

**(山口知事)**

何となく、自由にやる。今度、上（新行政棟最上階）ではプロジェクションマッピングをやっている。あんなのを本当に自由にやりたいようにやってもらっている。あれをまた更に発展させていく。面的にね。再来年、維新博的なものを考えるときに、教育、子供たちを巻き込んでやるように。

**(木島政策総括監)**

そうですね。明治維新 150 年のということで子供を巻き込む取組をしたり、知事に教員に語っていただく機会を作ったり。

**(山口知事)**

先生どのくらい知っているだろうか。先生をテストしたいな。先生に、誰か ICT の器具を使ってテストをすとか。どの程度か。5 択か何か、100 問クイズなんかやって。

**(木島政策総括監)**

いかがでしょうか、そういった取組は。

**(山口知事)**

ちょっと、リスクーか。意外と知らないと思うな、先生も。あまりそういう勉強はしてないもんね。

(木島政策総括監)

大体一巡いたしましたけれども、その他ご意見ございますでしょうか。大体知事も話されてましたけども、何か最後に一言ありますでしょうか。

(山口知事)

だから方向性としていい感じでやればなど。この会いいね。そうするとなんとなくまた元気が出てくるし。

(木島政策総括監)

特にこのテーマは、知事部局が「佐賀さいこう！」の取組をしていくというのも大事だと思いますし、先生のお力を借りて学校現場でも教えていっていただくというのも大事だと思いますので、正にこのテーマ、この会議に打って付けだと思います。

(山口知事)

あと事務局の職員、佐賀の勉強進んでいますか。いろいろなことがあるけど、やはりモチベーションというか、何とかしてやろうって気持ちって大事なんで。今、教育委員会はピンチだけどチャンスだと思ってね。こういうときだからこそ伸びることもいっぱいある。

(浦郷委員)

とりあえず今日はお話聞きながら、私も明治維新前後の佐賀人の、佐賀の活躍ぶりというのを承知していますが、今言われたように、150年とかそういうものを全部ひっくるめて言うと、どの道佐賀の教育含めて、佐賀の取組をそこに焦点をバシッと当ててやりきっていつてしまったほうがいいのかも知れないねというふうな思いに、今ちょっとなっています。

(山口知事)

そうすると、自ずと見えてくるもんでね。日本のことも見えるし世界のことも結構見える部分というのが多くて。だから佐賀って絶好の教材であることに早く気付いて欲しいなと思うね。

(浦郷委員)

それと、さっき一番最初に言ったことですが、そういった部分と同時展開で、何か日本というものの良さというのですかね、色んな面でですね、佐賀の教育ではそういったところをきちっと押さえた上で佐賀をと言っているんだよというふうな。なんかそういうものがあるやないかと。他県で佐賀はどういう教育しているのと言われるときに、実はベースにある日本というもののすばらしさを、色んな形で子供たちに示しながら、その中で、佐賀にある地域の色んなことを乗っけて、優れた人格形成をさせるというふうな、何かそういうもの

がきちっと作れないかなと。そのときに、今明治維新の話がありました、その明治のころに焦点を当てた話でもいいと思うんですよね。色んな日本の行事だとかについて、この頃村上龍が、7月出版ですかね、「日本の伝統行事」という、5,000円ぐらいする絵本を出しています。眺めてみたんですけど、なかなかやはりいいですね。そういうふうなものの中に、日本人の細やかな心情だとか、そういったようなものがあれこれ書かれたりしていますけれども。そういったような日本の持っている良さみたいなものをベースにしながら佐賀を、というふうな。そういうやり方ってできないかなと。前にちょっと言いましたが、鳥栖地区で日本語という教科。

#### (山口知事)

すばらしいですね。

#### (浦郷委員)

あれ私もすばらしいなと実は思うんですよね。日本の持っている様々な良さを、小さい子供たち、小学校あたりに教育させながら、先生たちも勉強しながらやっていっているんですけども、ああいう形というのは、例えば鳥栖がやっているからというだけではなくて、もしそれがいいものであれば、佐賀県全体でそれを全く同じにする必要はないんですけども、そういうベースを持ったものを、佐賀の教育なら教育として据えながらやっていけないかなと。そんなことをこの頃しきりに実は思っているんですけどね。そのときの全ての過去、明治維新、明治の時期に焦点を当ててっていうのはできそうな気がするんですよね。渡辺京二という人が編集した「逝きし世の面影」というとても優れた本があります。明治維新前後ぐらいに外国から来た人たちが日本を見て、もうなんてその貧乏な、貧しい国だろうと思いつつも、人々の姿を見たところですね、その日本人持つ精神のすばらしさに打たれて感動して、たくさんの方が、全然関係もない多くの人々が、日本人の心根のすばらしさを説くんですね。そういう話がたくさんある。あれはちょうど明治維新前後の時期に当たるんですね。そんなこともひっくるめて、その明治維新前後の佐賀の働きと合わせながら、日本の持っているすばらしさみたいなものも一緒にできていけば。単に佐賀のこと知っているということではなくて、そういう日本全体の感じ方も持ちながら、例えば日本全国にあるいは世界に打って出ることができるような人材を作っていけるんじゃないかと。そういうことを思ったりしております。

#### (山口知事)

まだ僕らには武器があつて。意外と「葉隠」なんてね、あんまりまだまだね、言うように出してないんですよ。結構興味を持って来られる方が多いんですけども、今までは。必ずしも表に出ていないところも、すばらしい教えもあるし。あと僕の一つの夢は、いずれ弘道館を作りたいなと思ってますね。今度作る弘道館は、それこそ皆さんがしっかり、きっちり

使いこなすことができるような、ICT なんかもしっかりと、今風のね、そのときはソフトが大事だと思うんだけど、そういうふうに煮詰めていくっていうことも可能だし、これから色々な楽しいことが企画できるかなと思っているんですけど。全てのベースにまず佐賀人が「佐賀さいこう！」と思うことがあって、そうでないと、いくら乗っけていってもガタガタと崩れ去っていくので、まずその時期なのかなと。今、この2年後の150年に向けての。

**(木島政策総括監)**

あと5分ほどになっておりましたけれども、その他のところで、何かご意見、ご発言ございますでしょうか。よろしければ、今日の総合教育会議はここまでとさせていただければと思います。最後に次回の会議ですけれども、テーマですとか具体的な日程につきましては、また改めて事務局からご連絡を差し上げさせていただきたいと思います。これをもちまして、第6回の総合教育会議は終了とさせていただきたいと思います。今日も活発な意見交換どうもありがとうございました。